

ながおかワーク&ライフセミナー第1講座を開催

—女性と子どもの貧困を考える学びの場—

■ 約120名が参加、連続講座がスタート

ながおかワーク&ライフセミナー第1講座が、1月10日(土)、アオーレ長岡で開催され、約120名が参加しました。

はじめに、主催者を代表して長岡地区労福協の矢島会長があいさつし、労福協の活動紹介とともに、本講座を皮切りに3月まで全5回の連続講座を行うことが紹介されました。

■ 映画「遠いところ」から見える現実

続いて、新潟・市民映画館シネ・ウインドのボランティアスタッフ五十嵐奈穂子さんから、上映作品「遠いところ」(工藤将亮監督)に込められた思いが紹介され、映画の上映が行われました。

映画は、若くして母親となったシングルマザーの姿を通して、沖縄が抱える貧困の問題を描いています。沖縄県では、子どもの貧困率が高く、若い世代での出産や、ひとり親家庭、非正規で働く人が多いという現状があります。その中で、十分な支援を受けられず、苦しい生活を送る女性や子どもが少なくありません。

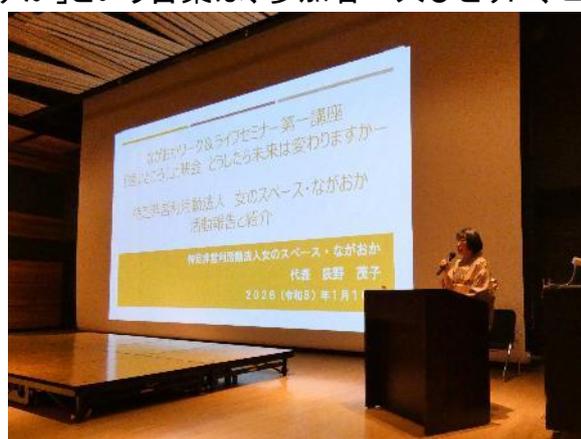
■ この問題は私たちの地域にも

こうした課題は沖縄だけの問題ではありません。新潟でも、ひとり親家庭の増加や不安定な働き方の広がりなどにより、同じような問題が身近なところで起きています。

映画の中の「どうしたら未来は変わりますか」という言葉は、参加者一人ひとりに、これから何ができるのかを考えさせる問いかけとなりました。

■ 支援の現場からの報告

上映後には、NPO法人「女のスペース・ながおか」代表の荻野茂子さんから、地域で行っている支援活動についてお話がありました。昨年1年間に寄せら



れた相談は 1,497 件にのぼり、DV や虐待、生活の困りごとなど、さまざまな悩みを抱えた女性や子どもが多くいる現状が報告されました。

荻野さんは、「困った状況は、その人一人の問題ではなく、社会のしくみや環境によって生まれることが多い」と話し、行政や支援団体、地域の人たちが力を合わせて支えることの大切さを訴えました。

■ 学びを行動につなげるために

今回の講座を通して、女性や子どもの貧困は決して特別な地域だけの問題ではなく、私たちの暮らすまちとも深く関わっていることを学びました。知ること、関心を持つことが、未来を変える第一歩です。

私たち長岡地区労働者福祉協議会は、働く人の声を大切にしながら、地域の団体や行政と協力し、支援の取り組みを広く伝えていきます。誰もが安心して暮らせる社会を目指し、学びを行動につなげていく決意を新たにす講座となりました。